

全体説明

国立情報学研究所
山地一禎

オープンアクセス加速化事業におけるNIIの開発内容を説明する会
2024年11月1日

2024年9月9日アップデート(v1.0.7)について

• リリース内容

• 機能追加：11件

- JPCOARスキーマ2.0対応（一部）
- シークレットURL機能
- ワークフロー戻る機能への対応

• 機能変更：8件

- 全文テキスト抽出機能の変更
- DOI付与済みアイテムの資源タイプ変更を一部可能とする変更
- 新規環境構築機能および移行機能でのデータ構造差分の修正（第一弾）

• 機能修正：51件

• リリース後の主な不具合

• リリース漏れ

- アクティビティの重複実行を防止する機能が動作していない

• 報告が増えていたバグ

- アクティビティがロックされてしまい解除できない

• 不完全な修正

- エラーが含まれるアイテムタイプの読み込みが終わらない

• 新規バグ

- 学位論文のDOIバリデーションチェックに本来不要な開始ページが含まれている
- 最初に表示されるインデックスのコメントが以降のコメントで表示されている

リリースノート
最新の課題リスト



今後のアップデートについての内部検討状況

**正式なアップデート日程は総合テスト完了後、
JPCOAR（共同運営本部・JC作業部会）と調整後に決定**

• 1月 JCリリース目標(v1.0.7a)

• 主な機能変更

- アクティビティの重複実行を防止するよう機能を変更
- ユーザがアクティビティロックを強制解除できるよう機能を変更

• 主なバグ修正

- エラーがあるアイテムタイプの読み込み処理に関する問題を修正
- DOIバリデーションチェックが過剰に効いている問題を修正
- インデックスのコメントが不必要に表示される問題を修正

• 2月 JCリリース目標(v1.0.7b)

• 主な機能変更

- データベース処理の効率化
- 新規環境構築機関および移行機関でのデータ構造差分の修正（第二弾）

• 6月 JCリリース目標(v1.0.8)

• 主な機能変更

- フィードバックメール機能のメールアドレス抽出ロジックの効率化
- シークレットURL機能を代理投稿者も利用できるように機能の変更
- シークレットURL管理画面を整理
- パフォーマンス改善

• 主なバグ修正

- JPCOARスキーマ2.0 カタログメタデータの修正
- インデックスの一括削除機能の不具合修正



オープンアクセス加速化事業（研究成果の即時共有化）

令和5年度補正予算額 100億円

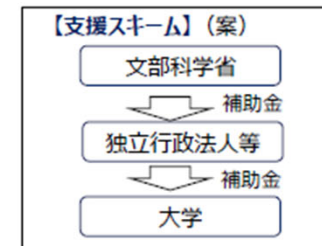
現状・課題

- G7 科学技術大臣コミュニケ（2023年5月）において、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時オープンアクセス（OA）を支援する旨明記。これを受け、2025年度新規公募分からの学術論文等の即時OAの実現に向けた国の方針を策定予定。
- この方針に基づき、**大学による研究成果（学術論文・研究データ）の管理・公開に関する体制の充実・強化**を図り、**産業界等にも開かれた知へのアクセス**を担保することで、研究成果の発信力を強化し、我が国の競争力を高める。

事業内容

公的資金による学術論文及び研究データの即時OA化を担保する体制を整備するため、研究データポリシーに基づく事業計画等を策定している大学を対象として、必要な以下の経費を支援

- ・研究成果の**管理・利活用システムの開発・高度化**に係る研究開発費
- ・研究成果の**管理・利活用システムの運用・体制強化**に係る経費
- ・研究成果の**OA化促進**に係る経費（論文掲載公開料等）



期待される効果等

- 各大学の研究データポリシーに基づく即時OA化に向けた体制整備・システム改革を促進
 - ⇒ **収載論文数・研究データの拡大、研究成果へのアクセスの拡大**
- 質の高い論文及び研究データの収載数が大幅に増加され、OA化を加速
 - ⇒ **OA率の上昇**
 - ⇒ **優れた研究成果の産業界での活用の促進、国際競争力の強化**

（担当：研究振興局参事官（情報担当）付） 23



オープンアクセス加速化事業（研究成果の即時共有化）

令和5年度補正予算額 100億円

現状・課題

○G7 科学技術大臣コミュニケ（2023年5月）において、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時オープンアクセス（OA）を支援する旨明記。これを受け、2025年度新規公募分からの学術論文等の即時OAの実現に向けた国の方針を策定予定。

○この方針に基づき、産業界等と連携し、取り組みを進める。



充実・強化を
国の競争力を高

事業内容

G7科学技術大臣コミュニケ（仮訳）

公的資金による学術論文等の事業計画等を

仙台、2023年5月12日-14日

ポリシーに基

1. 科学研究における自由と包摂性の尊重及びオープン・サイエンスの推進

- ・研究成果の管理
- ・研究成果の普及
- ・研究成果の共有

G7 は、FAIR 原則（Findable = 見つけられる、Accessible = アクセスできる、Interoperable = 相互運用できる、Reusable = 再利用できる）に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスの拡大のために協力する。これは、世界中の研究者や人々がその恩恵を受けるとともに、新しい知識の創造、イノベーションの促進、社会による知識へのアクセスの民主化及び地球規模の課題に対する解決策の開発に貢献するためである。これは、より再現性があり、信頼できる研究成果を構築することにも役立つ。

(案)

省
補助金
個人等
補助金

期待される効果等

- 各大学の研究 ⇒ 収載論文数の増加
- 質の高い論文及び研究データの収載数が大幅に増加され、OA化を加速 ⇒ OA率の上昇
- ⇒ 優れた研究成果の産業界での活用の促進、国際競争力の強化

(担当：研究振興局参事官（情報担当）付) 23



オープンアクセス加速化事業（研究成果の即時共有化）

令和5年度補正予算額 100億円

現状・課題

○G7科学技術大臣コミュニケ（2023年5月）において、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時オープンアクセス（OA）を支援する旨明記。これを受け、2025年度新規公募分からの学術論文等の即時OAの実現に向けた国の方針を策定予定。

○この方針に基づき、産業界等と連携し、取り組みを進める。



充実・強化を
国の競争力を高

事業内容

G7科学技術大臣コミュニケ（仮訳）

公的資金によるオープンアクセス加速化事業計画等を

仙台、2023年5月12日-14日

ポリシーに基

- ・研究成果の管理
- ・研究成果の普及
- ・研究成果のオープンアクセス

また、G7は、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援し、適切な科学的成果のより広範な共有のための学術出版における課題に対処する科学界の努力を支持する。

(案)

- 省
- 補助金
- 人等
- 補助金

期待される効果等

- 各大学の研究 ⇒ 掲載論文数の増加
- 質の高い論文及び研究データの掲載数が大幅に増加され、OA化を加速 ⇒ OA率の上昇
- ⇒ 優れた研究成果の産業界での活用の促進、国際競争力の強化

この目的のために、我々は、研究成果のためのインフラの相互運用性及び持続可能性を促進し、オープン・サイエンスの実践にインセンティブと報酬を与える研究評価アプローチを支援し、より効果的な証拠に基づく研究政策の形成を支援することを旨とする「研究に関する研究」を奨励するG7オープン・サイエンスワーキンググループの努力を支持する。

(担当：研究振興局参事官（情報担当）付) 23

G7コミュニケのOS関連内容まとめ

背景：実現したい世界

世界中の研究者による新しい知識の創造、イノベーションの促進、
社会による知識へのアクセスの民主化及び地球規模の課題解決

目的：G7のOSWGの大方針

FAIR 原則に沿ったオープンサイエンスの推進

目標：結果への期待

研究成果の公平な普及

研究成果の再現性の向上

方法：補正によるOA加速化事業

学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセス

手段：G7のOSWGにおける中心的话题

- 研究成果のためのインフラの相互運用性及び持続可能性を促進
- OSの実践にインセンティブと報酬を与える研究評価アプローチの支援

「方法」の断片的な状態のみを安易に実現しようとするのではなく
全体を俯瞰して何を実現すべきかを事業に取り込むべきかを考える

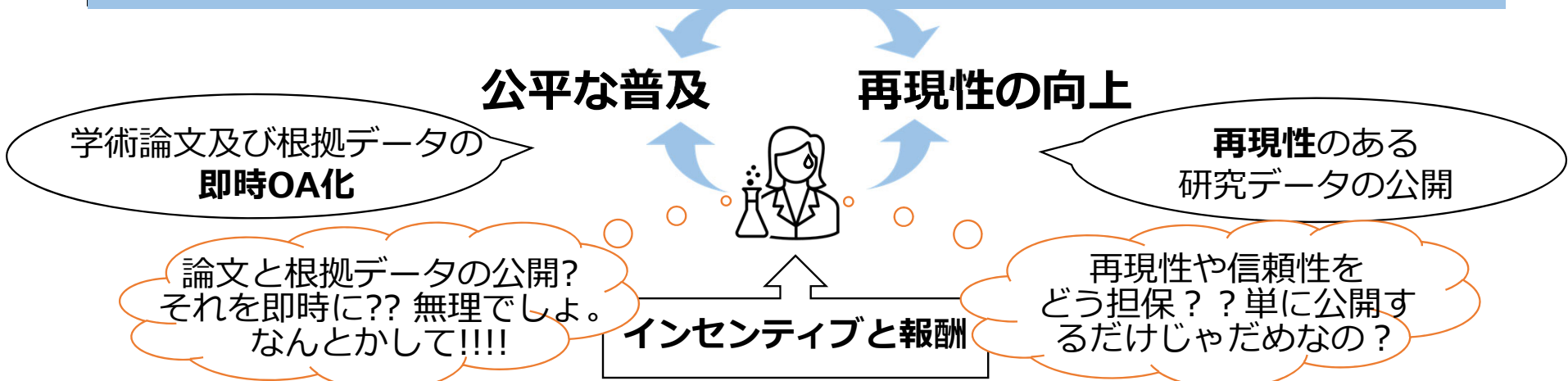
課題に取り組むべき視点

学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセス
に向けて実現すべきことは…、

1. 研究成果の公平な普及を実現するものでなければならない。
2. 研究成果は再現性が保証され信頼できるものでなければならない。
3. 研究者に活動のインセンティブを与える仕組みが必要となる。
4. これらを支えるインフラは相互運用性と持続性が保証されなければならない。

NII RDCをハブとするOA加速化基盤の整備

学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセス



提案

NII研究データクラウドをハブとするOA加速化基盤の整備

研究成果の公平な普及を支援する機能

研究成果の再現性と信頼性を実現する機能

即時OA活動にインセンティブを与える機能

即時OA機能の相互運用性を確保する認証機能

NIIサービス説明会2024 in 東京での意見

JAIRO Cloud

- 機関ストレージをJCに繋がられないか？
- セルフアーカイブ時に、メタデータの管理のために、どのように図書館員がワークフローに関与するかが制御できる機能が欲しい。
- 査読付きのフラグが欲しい(GRDMやCiRでも)。
- OAアシスト機能で何ができるかわからなかった。

GakuNin RDM

- 機関の管理者が、機関内のプロジェクトを管理したい。

全体

- セルフアーカイブ時に、どのようにNII RDCを使っていくかのシナリオが欲しい。

NII サービス説明会
2024

東京会場 10/29(火)

札幌会場 11/28(木)

福岡会場 12/19(木)

個別相談week online 10/30(水)-11/29(金)

実施内容

NII RDCをハブとするOA加速化基盤の整備

<p>研究成果の 公平な普及を 支援する機能</p>	<p>研究成果の 再現性を 確保する機能</p>	<p>即時OA活動に インセンティブを 与える機能</p>	<p>即時OA機能の 相互運用性を 確保する認証機能</p>
<p>論文のグリーンOA促進支援機能の高度化</p>	<p>GakuNin RDMと連携した根拠データの管理・公開機能の高度化</p>	<p>エビデンスに基づいたポリシー・戦略の策定を支援するモニタリング機能の整備</p>	<p>研究者による積極的な参画を実現する高セキュアな認証基盤の整備</p>
<p>林・河合</p>	<p>込山</p>	<p>西岡</p>	<p>鈴木</p>

4つの柱で構成されるOA加速化基盤で即時OAを強力に推進

RCOS

yamaji@nii.ac.jp